

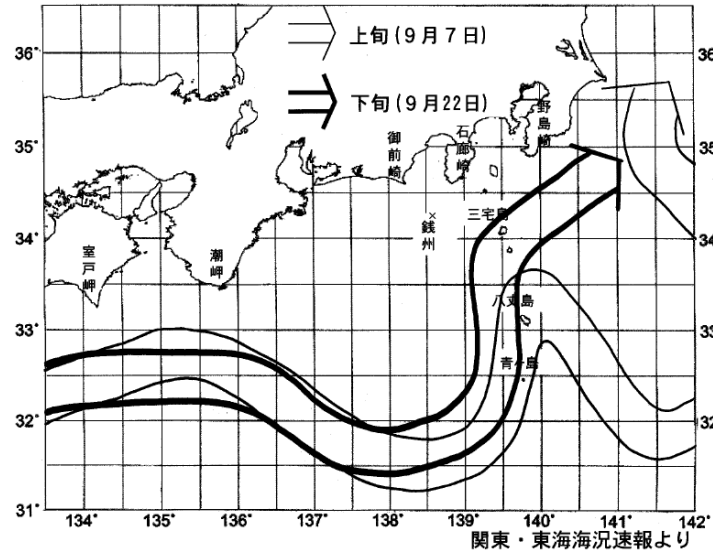
漁海況月報

平成29年9月1日

No. 9 ~9月30日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



9月定地水温の旬平均値(°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	25.0	25.9	25.3	26.5	25.5	25.7
	0.2	1.4	0.7	0.6	-0.2	0.3
中旬	25.0	25.4	25.1	26.1	25.5	25.8
	0.8	1.4	0.9	1.0	0.6	1.4
下旬	24.0	25.0	24.5	25.3	24.7	24.7
	0.9	1.5	1.0	1.0	1.1	1.3
月	24.7	25.4	24.9	26.0	25.2	25.4
	0.6	1.4	0.9	0.9	0.5	1.0

*地頭方の水温観測は終了しました。

【黒潮流路】

黒潮は9月上旬はW字状(A型+D型)で、潮岬沖33°Nから南東に進み、駿河湾沖31.5°N、138.5°E付近から北北東に進み、八丈島付近33°N、140°E付近から南南東に進んだ後32°N、141.5°E付近から北上した。中旬はA型で、潮岬沖32.5°Nから東南東に進み、駿河湾沖32.5°N、138.5°Eを北上した後、御蔵島付近から東北東に進んだ。下旬もA型で潮岬沖32.5°Nから南東に進み、遠州灘沖32.5°N、138°Eから北東、その後北に進んだ後、三宅島付近から房総半島に接近して北東に進んだ。

【県下沿岸域】

9月上旬は、稲取、下田、雲見「やや高め」、伊東、沼津、焼津「平年並」であった。中旬は、全ての観測点で「やや高め」であった。下旬は、稲取「高め」、伊東、下田、雲見、沼津、焼津「やや高め」であった。

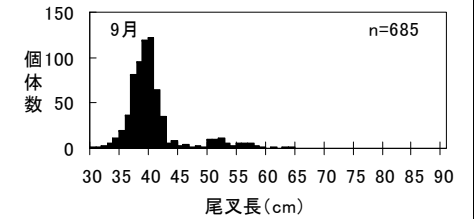
【竿釣りカツオ】

9月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚量は54トンで前年同月(100トン)の54%であった。魚価は289円/kgで前年同月(522円/kg)を下回った。

漁場は、34°~35°N、138°~139°Eの駿河湾沖や遠州灘沖などを中心とした海域であり、水揚げされた魚体の銘柄は、極小(尾叉長38~40cmモード)を主体にチン(尾叉長36~37cmモード)、中(尾叉長50~52cmモード)、小(尾叉長43~44cmモード)及び大(尾叉長58~59cmモード)であった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
29年9月上旬	14	10	1.4	301
中旬	7	7	1.0	390
下旬	33	14	2.4	263
29年9月計	54	31	1.7	289
28年9月計	100	38	2.6	522
27年9月計	100	30	3.3	447



御前崎港における測定結果

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網6か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、北川、谷津 ※赤沢は新網敷設のため休業中)の水揚量は274トンで前年の同漁場の水揚量(287トン)の95%であった。また、1か統あたりの水揚量は、45.6トンで前年(41.0トン)の1.1倍、平年(昭和57~平成28年の平均50.2トン)の91%であった。水揚量の多い漁場は、伊豆山漁場(65.8トン、ブリ、ヤマトカマス、さば類)、次いで古網漁場(64.0トン、ヤマトカマス、さば類、ブリ)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)の通りで、ヤマトカマスは99.6トンで前年比4.1倍、平年比3.7倍と好調であった。さば類は51.9トンで前年比31%、平年比42%と前年、平年を大きく下回る低調な漁獲であった。さば類のうち、ゴマサバは51.5トン、マサバは0.4トンであった。なお、ゴマサバは尾叉長30~35cm主体で20cm前後の当歳魚も混じった。ブリは33.1トンで前年比24.6倍、平年比2.4倍であり、銘柄わかし主体であった。銘柄わかし水揚量は29.6トン(前年比27.9倍、平年比4.8倍)と多かった。マルソウダは15.5トンで前年比75%、平年比29%と低調、オアカムロは12.5トンで前年比4.7倍、平年比1.9倍と好調であった。

多獲された魚種の主な漁場は次頁(表)の通りで、ヤマトカマスは富戸漁場が38%(37.5トン)、古網漁場が22%(22.3トン)、さば類は古網漁場が25%(13.1トン)、北川漁場が24%(12.3トン)、ブリは伊豆山漁場が53%(17.7トン)、古網漁場が34%(11.1トン)、マルソウダは北川漁場が33%(5.1トン)、伊豆山漁場が22%(3.5トン)、オアカムロは北川漁場が66%(8.3トン)、富戸漁場が21%(2.7トン)を占めた。

(表) 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
ヤマトカマス	99.6	4.1	3.7	富戸、古網、伊豆山
さば類	51.9	0.3	0.4	古網、北川、川奈
ブリ	33.1	24.6	2.4	伊豆山、古網
マルソウダ	15.5	0.8	0.3	北川、伊豆山、川奈
オアカムロ	12.5	4.7	1.9	北川、富戸、川奈

【サバ棒受網】

今月は棒受網で操業を行い、小川港にはゴマサバが210トン(前年同月比50%)水揚げされ、1隻あたり水揚量は21.0トン(前年同月19.9トン)であった。1kgあたり平均単価は79円で前年同月(82円)、前月(92円)を下回った。なお、マサバの水揚げはなかった。

漁獲されたゴマサバの体長組成は尾叉長29cmモードで、年齢組成は1歳魚主体であった。

小川港 さば類(棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
29年9月上旬	—	29	1	2	—	14.6	—	83	三宅
中旬	—	60	1	2	—	29.9	—	77	三宅、ひょうたん瀬
下旬	—	120	2	6	—	20.1	—	79	三宅
29年9月計	—	210	4	10	—	21.0	—	79	三宅
28年9月計	—	419	8	21	—	19.9	—	82	銭洲、三宅
27年9月計	—	370	10	22	—	16.8	—	109	三宅、三本

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

【シラス船曳網】

主要6港(静岡、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居)の総水揚量は43.5トンで前年同期(340.5トン)の13%、平年同期(479.8トン)の9%と、前年同期及び平年同期を下回った。1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が51kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が67kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は61kgと前年同期(241kg)の25%、平年同期(過去5か年平均:308kg)の20%と前年同期及び平年同期を下回った。また、平均単価は1,449円/kgと、前年同期(980円/kg)及び平年同期(856円/kg)を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	3.5	6	62	56	1,043
舞 阪	11.5	6	175	66	1,259
福 田	8.1	6	125	65	1,301
御前崎	5.8	8	72	81	1,792
吉 田	5.8	8	131	44	1,450
静 岡	8.8	7	154	57	1,769
29年9月計	43.5	41	719	61	1,449
28年9月計	340.5	69	1,410	241	980
27年9月計	264.5	58	1,189	223	942

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年同期:過去5か年(平成24~平成28年)平均値

【まき網(いわし類)】

マイワシの水揚げは、小川港では194.0トン(前年同月比12.5倍、平年同月比7.3倍)、沼津港では156.8トン(前年同月比1.1倍、平年同月比1.1倍)、伊東港では1kg(前年同月比0.003%、平年同月比0.004%)、静浦港では無かった。カタクチイワシの水揚げは全ての港(小川港、沼津港、静浦港、伊東港)で無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚げは、マイワシが1.4トン、カタクチイワシが0.3トンであった。

*平年:過去5か年(平成24~平成28年)平均値

【調査船駿河丸の動向】

9月 4日	ドックより回航	(1日間)
9月 5日 ~ 9月 7日	地先定線観測調査	(3日間)
9月 11日 ~ 9月 14日	サクラエビ調査(卵数法)	(4日間)
9月 19日 ~ 9月 20日	いわし類卵稚仔及びふぐ稚魚調査	(2日間)
9月 21日 ~ 9月 22日	サクラエビ調査(面積密度)	(2日間)
9月 26日 ~ 9月 29日	伊豆諸島周辺カツオ魚群分布調査	(4日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と
関東・東海海況速報を見ることができます。

